人口の減少を人口動態から見ると、自然動態（出生と死亡）は、平成12年以降では出生数が死亡数を下回る、いわゆる自然減の状況が続き、社会動態（転入・転出）では、昭和40年・50年代ほどの転出超過ではないものの、転出者が転入者を上回る社会減の状況が続いています。

人口とは何か

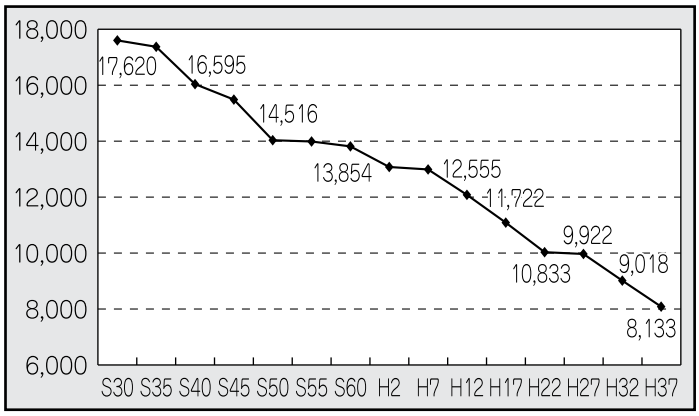
人口は、地域における福祉、教育、産業等の行政需要の必要量を示す基本的な指標であり、人口の変化は、地域における労働力や資本という生産要素の流動状況を反映していることから、地域経済の成長指標として評価されるものでもあるのです。

小野町の活力を維持するためには、新たな就業機会の創出、良好な居住環境や安心して子育てが出来る環境の整備等により、人口減少の抑制に努める必要があります。

変わる人口構造

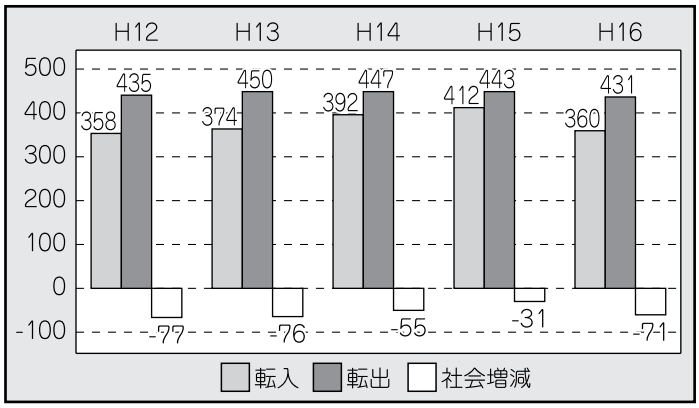
小野町の人口構造は、少子高齢化へと移り変わっています。少子化と高齢化がどの程度進んでいるのか、現状と課題については、次号以降でお知らせします。

総人口の推移と将来人口



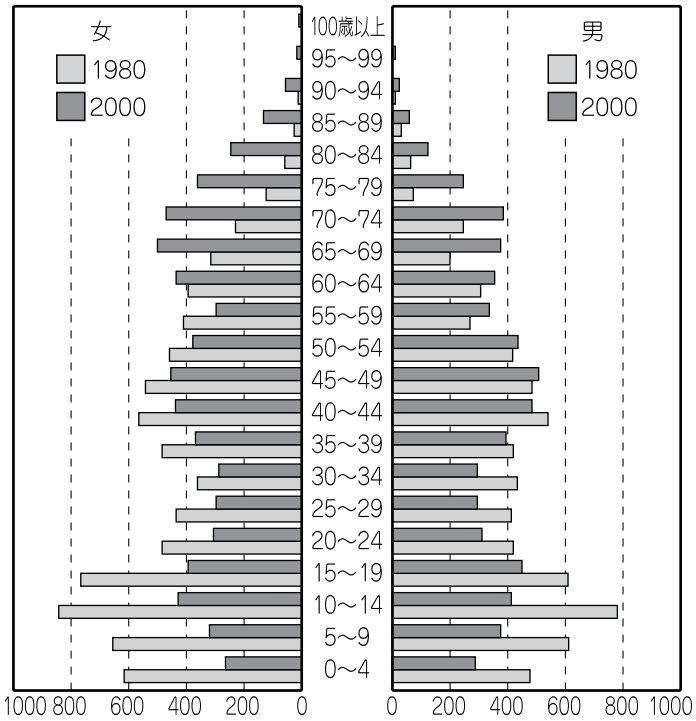
平成17年以降は推計値で表しています。推計値の算出は、平成2年・7年の国勢調査結果を基に、平成37年の合計特殊出生率を1.60人として推計しました。

転入・転出の状況



平成12年以降の社会動態（転入・転出）では、新卒者（高校）や20代の若者を中心に、転出超過の傾向が続いています。

人口構造の年度比較



1980年（昭和55年）と2000年（平成12年）の人口を年齢5歳区分で比較すると、人口構造が変化していることに気づきます。